

新潟大学医学部

“日本一”の 医師育成拠点創設基金

2024年度 報告書



真の強さを学ぶ。

新潟大学
NIIGATA UNIVERSITY

ご挨拶



新潟大学医学部長

佐藤 昇

「“日本一”の医師育成拠点創設基金」を通じて、新潟大学医学部医学科に多大なるご支援を賜り、誠にありがとうございます。

新潟大学医学部の歴史を紐解くと、明治43（1910）年に創立された官立新潟医学専門学校に遡ります。以降、大正11（1922）年には我が国6番目の国立大学医学部として官立新潟医科大学に昇格し、昭和24（1949）年に新制大学として現在の新潟大学医学部となり115年余りの歴史があります。この間、多くの皆様に支えられ、新潟県唯一の医師養成機関として医師・医療人を多数輩出してきました。

今日の新潟大学医学部医学科は、この伝統を受け継ぎ「医学を通して人類の幸福に貢献する」という理念のもと、医学の様々な分野で新潟県内・全国各地・世界各地で活躍できる人材育成を推進し、地域・国際社会に対して貢献していくことを重要な使命としております。

一方、新潟県は、国が示した医師偏在指標（2024年）において、全国ワースト3位の医師少数県とされております。このような状況下で、本学医学部医学科では、新潟県からの要請に応え、令和5年度から入学定員を全国最多の140名（地域枠40名を含む）に増員して日本一の規模となりました。

今後、少子高齢化が進む本県において、医師数を確保するとともに質の高い医師を育成することも重要です。「質」という言葉の定義は大変難しいのですが、医療知識や医療技術などのテクニカルスキルの面では、自身の専門分野に特化した診療能力に加え専門分野以外の幅広い疾患を診ることのできる総合診療能力の充実が求められています。加えて、コミュニケーション能力などのヒューマンスキルの養成も同時に行っていくことも重要です。

質の高い医療人を養成するために、継続的に教育方法の見直しを図っており、AI（人工知能）やVR（仮想現実）などの最新テクノロジーの導入・地域実習の拡充などを行っているところです。皆様からいただいたご寄附をこのような医学教育の充実のために大切に活用させていただきます。

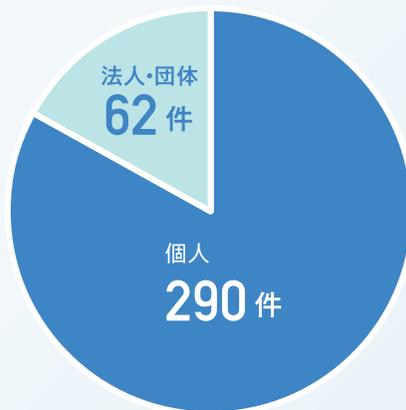
あらためて、地域の皆様、企業・団体等の皆様、卒業生の皆様の温かいご支援に深く感謝申し上げますとともに、引き続き、格別のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

寄附実績

多くの方々からご寄附をいただき、
ありがとうございます。

寄附件数 **352**件

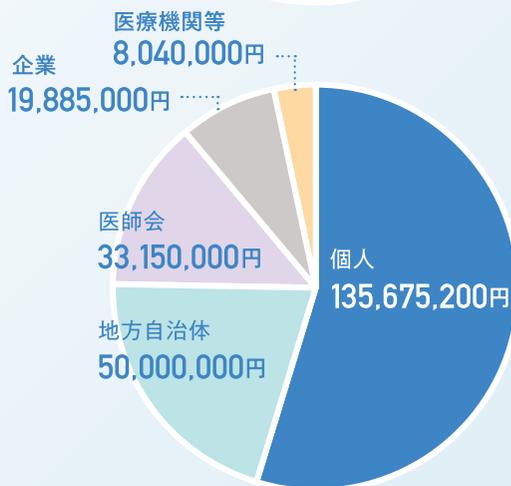
寄附総額 **246,750,200**円 (2025.7.1現在)



■ 特別会員の称号授与

一定額以上のご寄附をいただいた方に、以下の称号をお贈りしています。

寄附の累計金額		称号	人数	
個人	法人・団体		個人	法人・団体
1,000万円以上	3,000万円以上	特別栄誉会員	2	2
500万円以上	1,000万円以上	栄誉会員	2	
100万円以上	500万円以上	功労会員		1
50万円以上	200万円以上	功績会員	3	2



基金の活用計画

本基金は、最先端の教育環境整備や、
地域医療を担う医師の育成に向けた取組に活用させていただきます。

最新テクノロジーの導入

VRを活用した教材の開発

学生が何度も繰り返し学ぶことができる、
質の高い体験型コンテンツを開発します。

診察シミュレータの整備

臨床実習や実技試験で使用される
診察シミュレータ等を整備します。



地域医療の担い手育成

「ひよっこドクターの ほけんしつ」活動

学生が地域住民の健康相談に応じる取
組を通じ、地域と継続的に関わるサイク
ルの形成を目指します。



地域医療実習の新設

1年生が県内の各地域を訪問し探索す
るフィールドワークを新設し、地域に
対する学生の理解と愛着を深めます。

新潟大学医学部医学科における教育活動

「医学を通して人類の幸福に貢献する」という理念のもと、
知識だけでなく、豊かな人間性と高い倫理観を兼ね備えた医師を育成します。

医学科6年間のカリキュラム

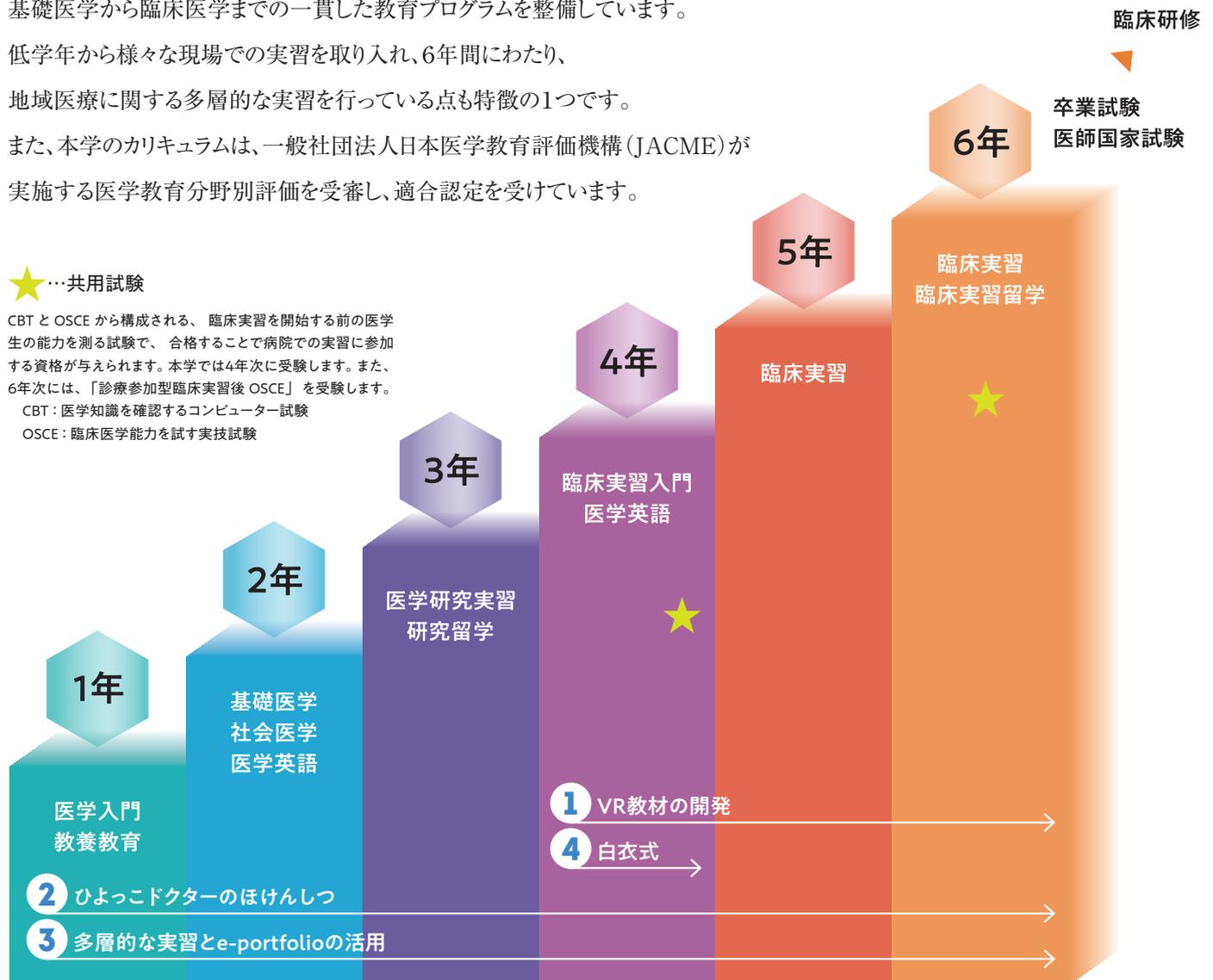
新潟大学医学部医学科は、国際基準に沿った、
基礎医学から臨床医学までの一貫した教育プログラムを整備しています。
低学年から様々な現場での実習を取り入れ、6年間にわたり、
地域医療に関する多層的な実習を行っている点も特徴の1つです。
また、本学のカリキュラムは、一般社団法人日本医学教育評価機構(JACME)が
実施する医学教育分野別評価を受審し、適合認定を受けています。

★…共用試験

CBTとOSCEから構成される、臨床実習を開始する前の医学生
の能力を測る試験で、合格することで病院での実習に参加
する資格が与えられます。本学では4年次に受験します。また、
6年次には、「診療参加型臨床実習後 OSCE」を受験します。

CBT：医学知識を確認するコンピューター試験

OSCE：臨床医学能力を試す実技試験



多様な現場での早期実習

シミュレーション教育を取り入れた充実した臨床実習

十分な教養教育

リサーチマインド
醸成

国際感覚を涵養する国際交流プログラム

プロフェッショナリズム教育

1 VR教材の開発

学生が診察の手法を学ぶことができる体験型コンテンツを開発しています。VR教材は、繰り返し手順を学ぶことができるため、実習前の予習に最適であり、2024年度は、病院実習に参加する学生全員がこの教材で学びました。

2024年度に開発した教材 初期救急対応・頭頸部診察

日本一の医師育成拠点の創設に向け、今後もニーズの高いコンテンツの開発を進めます。

VR教材の
活用

医学生の
練習機会の
増加

診察手技の
向上



VRゴーグルをつけて
バーチャルの患者を診察



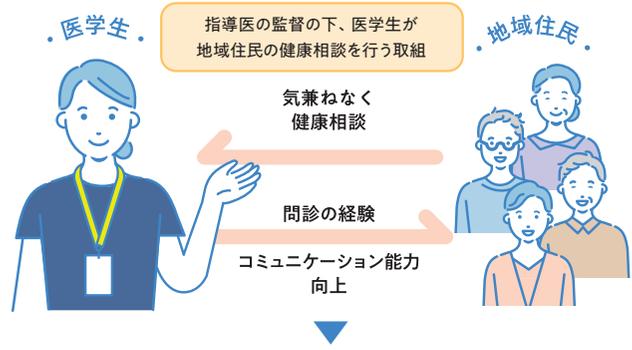
ゴーグル内で見えている画像

学習者がVRゴーグルで見ている画面(動画)
<https://m.youtube.com/watch?v=7d5ePactztl>



2 ひよっこドクターのほけんしつ

2024年度は県内4カ所(魚沼市、十日町市、津南町、小千谷市)を訪問し、のべ20名のひよっこドクターが、197名の地域住民の健康相談を実施しました。活動を通じて、学生から指導医までが地域と継続的に関わるサイクルの形成を目指しています。



実際の健康相談の様子(小出病院祭にて)



学会発表の様子(日本プライマリケア連合
学会学術集会・浜松)

3 多層的な実習とe-portfolioの活用

地域への理解と 愛着を育む早期実習

2024年度
新設

1年生:医学入門(フィールドワーク)

新潟県内の各地域を訪問し、その地域特有の医療的・社会的課題を探索

2~3年生:早期地域医療体験実習

老人保健施設、特別支援学校、訪問看護ステーションなどで、医療が求められる現場の多様性を学ぶ

地域により深く入り込む 参加型臨床実習

4~6年生:臨床実習

急性期から回復期、慢性期医療、救急、在宅医療、地域家庭医療まで幅広い医療の現場を体験

「e-portfolio」の活用

学生が臨床実習において実習目標・省察、研修内容を登録できるe-portfolioシステムを開発。実習記録を丁寧かつ簡便にとることができ、モチベーションの向上にもつながります。今後、教員からフィードバックやサポートを提供できる仕組みも導入します。



学生はスマホで
自身の実習記録を登録

教員が学生の記録を
確認・フィードバック

4 白衣式

2024年12月20日(金)、臨床実習に参加する4年生に白衣を授与し、実習の門出を祝い、学生たちが決意を新たにする「白衣式」を行いました。学生たちは、約1年半をかけて、本学医歯学総合病院などにおいて臨床実習に励み、医師免許取得に向けた実務を学んでいます。



教員から学生へ白衣がかけられる様子

学生の声



2024年度 4年生
吉田 智哉さん

皆様からのご支援により、VR教材が新たに導入されたといいました。ありがとうございます。

臨床現場(病院)での実習前に合格する必要がある実技試験(医学生共用試験臨床実習前OSCE)の受験にあたり、教科書や動画での学習では十分なイメージがしにくい診察手技を、ガイド機能のもとで繰り返し好きなタイミングで学ぶことができ、とても有意義に思います。特に頭頸部や神経診察においては診察手技の種類と手順が多く、苦戦を強いられていましたが、本VR教材を用いることで納得いくまで自由に練習ができるため、診察手技の習得にとても役立ちました。



2024年度 2年生
村山 珠美さん

「ひよっこドクターのほけんしつ」の活動に初めて参加した際、地域住民の方々との交流から多くを学び、「地元でもこの活動を実現したい」と強く感じました。その思いを先生方や小千谷市の市民意見箱で伝えた結果、小千谷市のイベントに出展できました。地域住民の声を直接伺う経験は貴重で、新たな視点が得られたとともに地元の健康増進に貢献したいという気持ちが一層高まりました。今年度は初めて学会での発表にも挑戦します。皆様からの温かいご寄附のおかげで、こうした貴重な機会を逃すことなく、活動をのびのびと行うことができます。ご支援に心より感謝申し上げます。今後もご期待に応えられるよう、一層努力してまいります。



2024年度 卒業生
中島 寛音さん

まずは医学教育・研究の大切さをご理解いただき、温かいご支援をありがとうございます。

私は在学中、医学生が地域住民の健康相談を行う「ひよっこドクターのほけんしつ」という活動に参加しました。地域の方から健康のお悩みを聞き、時に指導医の助けも借りながら返答をしました。また、活動の様子について学会発表をする機会もいただきました。これらの経験を通して、臨床実習でより自信を持って患者さんと関われるようになったり、自分と異なる立場・考えの人とのコミュニケーションを楽しむ能力がついたりしました。

医師になれた今、「地域の皆さんが安心して暮らす街」をつくれるよう自分の仕事をしたい、と初心に立ち返っているところです。ご支援、改めて感謝申し上げます。

今後の支援のお願い

新潟大学医学部は、令和5年度から入学定員を全国最多となる140人に増員しました。規模の日本一にとどまらず、教育の質を拡充して「社会から求められる医療人」を育成する“日本一”の拠点となることを目指します。これからも温かいご支援をよろしくお願いいたします。

■ 謝意の表明・特典

寄附をいただいた皆さまへの謝意の表明

ご芳名を新潟大学ホームページや広報誌等に掲載

寄附金額に応じた様々な特典

- ・感謝状贈呈
- ・講義室入口の芳名板にご芳名を掲示
- ・「感謝のつどい」の開催
- ・医学部における特別会員の称号授与
- ・記念碑の設置 など



2024年度「感謝のつどい」の様子

■ 申込方法

新潟大学ホームページ内「寄附の申し込み」ページからお申し込みいただけます。

新潟大学TOP > 大学案内 > 寄附・サポート
> 新潟大学基金 > 寄附の申し込み

<https://www.niigata-u.ac.jp/information/2022/99211/>



「ご寄附の目的」欄にて、「**新潟大学医学部“日本一”の医師育成拠点創設基金**」に**チェック**を入れてください。

■ お支払方法

▶ クレジットカード	ご利用のカード情報をご入力いただき、そのまま決済が可能です。
▶ コンビニ払い込み	セブンイレブン、ローソン、ファミリーマート、ミニストップ、セイコーマートでの払い込みが可能です。
▶ ネットバンキング・ATM	Pay-easyでのお手続きとなります。
▶ 銀行振込または郵便為替	後日、振込用紙をお送りします。

お問い合わせ先

医師育成拠点事業に関すること

新潟大学医歯学系総務課
電話 025-227-2001 FAX 025-227-0715
E-mail shomu@med.niigata-u.ac.jp

寄附手続きに関すること

新潟大学サポーター連携推進室
電話 025-262-6010 FAX 025-262-7796
E-mail kikinjimu@adm.niigata-u.ac.jp



この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。